

平成 30 年度第 2 回 鎌倉市障害者支援協議会全体会 会議概要

開催日時	平成 30 年 10 月 31 日（水）10 時から 12 時まで
開催場所	鎌倉市福祉センター 2 階 第 1・2 会議室
出席者	<p>[全体会委員] ○17 名出席（4 名欠席・1 名代理出席）</p> <p>[運営会議委員] ○2 名出席（1 名欠席）</p> <p>[オブザーバー] ○1 名出席（横須賀三浦障害福祉圏域 地域生活ナビゲーションセンター 社会福祉法人湘南の風支援センター風）</p> <p>[事務局] ○8 名出席</p> <p>以上 28 名出席 「平成 30 年度鎌倉市障害者支援協議会 第 2 回全体会 出席者名簿」を参照</p>
協議事項	<p>1. 各専門部会の活動状況（中間報告）</p> <p>①精神保健福祉部会 ②地域生活支援部会 ③就労支援部会 ④こども支援部会</p> <p>2. テーマ別検討・意見交換</p> <p>（1）講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ 「地域生活支援拠点等の整備について」～ 藤沢市の事例から学ぶ ～ ・講師 吉田 展章 氏（ふじさわ基幹相談支援センターえぼめいく所長） <p>（2）意見交換</p> <p>3. その他</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 回全体会等 会議次第 ・第 2 回全体会 出席者名簿 ・平成 30 年度第 1 回全体会会議結果概要（案） ・（資料 1）平成 30 年度精神保健福祉部会の活動状況（中間報告） ・（資料 2）平成 30 年度地域生活支援部会の活動状況（中間報告） ・（資料 3）平成 30 年度就労支援部会の活動状況（中間報告） ・（資料 4）平成 30 年度こども支援部会の活動状況（中間報告） ・（資料 5）好事例から見る地域生活支援拠点等のイメージ図（国資料） ・（資料 6）地域生活支援拠点等の整備～藤沢市での取り組みと道のり～ ・（資料 7）第 3 回各専門部会の開催予定

会議概要	<p>○開会 冒頭、委員等の出席状況、会議の成立、配布資料及び記録作成のための録音を行う旨の報告・確認を行った。その後、寺田会長から開会あいさつに引き続いて、今回は前半を各専門部会からの報告とし、後半をテーマ別検討・意見交換として進めていくことが確認された。次第に基づいて進められた会議の概要は以下のとおりでした。</p> <p>○議題（協議事項）</p> <p>1. 各専門部会の活動状況（中間報告） 各部会長から資料に基づいて、今年度の各専門部会での協議・取組みの状況等について、それぞれ次のとおり中間報告が行われ了承された。 なお、こども支援部会については、部会長欠席のため事務局からの報告とした。</p> <p>①精神保健福祉部会 《協議・取組み状況等の報告》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成した『相談支援の為に精神福祉情報ガイド☆かまくら』を更新していくため関係機関に更新情報の照会を行っていく予定である。 ・医療と福祉との情報共有、連携を図るため、共通のアセスメントシートがあると良いのではないかと意見を聞いて進めていく予定としている。現在は、先行するところの資料を検討して、たたき台作りに取り組んでいる。 ・鎌倉保健福祉事務所の『地域で暮らそう検討会』とも情報共有し連携した協議を進めていくとともに、32年度までに予定されている地域包括ケアシステムの構築に係る「協議の場」の設置についても検討していく予定としている。 ・精神保健福祉部会では、当事者の方2名に新たに委員として加わっていただいているが、とてもいい話し合いが出来ていくのではないかと期待している。 <p>《委員からの主な意見等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市で色々な福祉の分野における上位計画となる地域福祉計画を策定していくが、精神障害者の地域包括的ケアシステムについてもこの計画の中に位置付けが必要であり、スケジュール等に留意して進めて欲しい。 <p>（障害福祉課）地域福祉計画に各関連の計画をどのように整合させるかは課題であり、十分に意識して取り組んでいきたい。</p> <p>②地域生活支援部会 《協議・取組み状況等の報告》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会活動について大船まつりパレード参加を始め、今年も取組みを進めていく。 ・「本人の暮らしの場所の希望に関する調査」を基幹相談支援センターを主体に市内相談支援事業所を対象に取り組み始めている。本人の希望がどこまで聞けているか、どのような施設が望まれているかなどの項目について、時間をかけて丁寧に進めていきたいと考えている。 ・地域生活支援拠点等の整備に関する話し合いについては、横三圏域における協議の状況等を参考に検討を進めていく予定としている。
------	---

<p>会議概要 (続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・移動支援について、市が関連事業所を対象に実施したアンケート調査の結果等を分析し、今後のガイドラインの協議、検討に活かして進めていきたい。 ・権利擁護に関する取り組みは、基幹相談支援センターで実施する市民向け講演会の企画と協働して実施をした。 <p>《委員からの主な意見等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会に参加したが、当事者自身の考えが分かってすごく勉強になった。このような講演会を定期的を開催したり、普及活動を行っていくことは必要と思う。 ・この講演会のことを聞いて、当事者として自ら皆さんの前で話をしていきたいと感じた。 ・地域福祉コーディネーターについて、介護保険と障害者の取り組みがうまくタイアップできていない。地域福祉計画の中で整理統合等してどのように位置付けるかを検討していくことが必要ではないか。 ・移動支援については、支給時間を単に増やしてもサービス提供事業所が実際に対応していけるのが課題であり調整が必要である。 <p>③就労支援部会</p> <p>《協議・取り組み状況等の報告》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成した「仕事応援ガイドブック」は就労支援事業所の情報が一元化できるようまとめたもので、今年度も最新情報に更新を図って発行していく。 ・「養護学校見学と支援制度説明会」を主に市内中小企業等を対象に声掛けして開催し、実際の状況を見学してもらうとともに、事業者に対しどのようなサポートがあるのかを周知していきたいと考えている。 ・市内就労支援事業所の連携を図っていくことが必要と考えており、障害者二千人雇用センターの取り組みとも連携しながら取り組みを検討していきたい。こうした取り組みを進める中で就労希望の実態等の把握も検討できたらと考えている。 <p>《委員からの主な意見等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労支援については、定着率の状況等について考えていく必要があるのでは。 <p>④こども支援部会</p> <p>《協議・取り組み状況等の報告》</p> <p>部会長不在のため、事務局から資料に沿って協議、取り組みの状況を報告した。</p> <p>《委員からの主な意見等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの問題への取り組みについて、現在の市の状況では障害福祉課と発達支援室で分断された対応となってしまっているが、全体的に見ていくためには、部会で協議されている学童保育の現場における課題等も含め、こどもみらい部が進めていくことが重要であり、庁内的な検討が必要ではないか。 <p>2. テーマ別検討・意見交換</p> <p>(1) 講演</p> <p style="padding-left: 2em;">地域生活支援拠点等の整備～藤沢市での取り組みと道のり～</p> <p style="padding-left: 2em;">講師 吉田 展章 氏 (NPO 法人藤沢相談支援ネットワーク ふじさわ基幹相談支援センターえぼめいく所長)</p>
----------------------	--

<p>会議概要 (続き)</p>	<p>今回のテーマ別検討・意見交換の実施に当たって「地域生活支援拠点等の整備」を題材としたこと及び本障害者支援協議会で今後どのように取り組んでいくかを協議していく上で藤沢の取り組みから学んでいくことの主旨等を事務局から説明した。引き続き、講師から「地域生活支援拠点等の整備～藤沢市での取り組みと道のり～について、資料を参照に講演を受けた。</p> <p>その後、講師との質疑及び意見交換を実施し、その概要は次のとおりでした。</p> <p>《講師との質疑》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に一番困る。具合が悪くなった時、病院からすぐに来なさいと言われたがその時は施設の職員が迎えに来てくれてすごく助かった。地域生活支援拠点は、やはり地域がすごく大事で地域の人との繋がりが無いとうまくいかないと思っている。 ⇒いわゆる専門家や支援者が日頃からスタンバイしているよりはその地域の中で困った時に例えば救急車を呼んでくれるとか、ゴミ出しを手伝ってくれるとかという人をいかに作るか、それも地域包括ケアシステムだと思う。そしてそれを作るのは当事者や家族だけでなく、相談機関がそういう資源や人たちを巻き込まれるかだと思う。 ・医療との連携で、メディカルショートという話があったが、どういうイメージ又は目標を構えていられるか教えて欲しい。 ⇒医療ケアが必要な人を受け入れる先が、特に湘南東部は少ない。治療が必要な入院ではなく例えば親のレスパイトや緊急時の一時預かりを医療機関で行ってもらようなイメージである。それを病院の自助努力ではなくて、きちんと制度としての仕組みに位置付けることを目指している。色々な側面から必要性を訴えていこうとしているところで実際にはまだ仕組みには至っていない。 <p>《意見交換》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤沢ではショートステイにポイントを絞って、まずここを中心に考えて進めていき、最終的に全体へというアプローチとしている、これは学んでいかなければいけない点だと思う。 ・市民をもっと巻き込んでいかなければ、地域包括ケアを進めたり、本当に共に暮らしていくということはできないのではと思う。例えば町内にある問題を拾い上げていってもっと巻き込んでいくということが必要ではないかと感じている。 ・専門家だけが少数で連携するのではなく、民生委員を始め地域をまとめるような方達も一緒に連携することで、精神障害者が地域に出るなど言われた時代から共に助け合える立場になれるような社会に進められるのではと思う。 ・専門職の方の集まる機会は比較的増えてきていて、医療や、障害と介護との連携なども少しずつではあるが取れてきているのではと思う。ただ、市民の方でこういう場に来れない方達の意見をもっと吸い上げていくことが重要ではと思う。 ・基幹相談支援センターや委託相談支援事業所の位置付けなども不明な点が多いと思う。自分たちも考えていかなければならないが、やはり行政と一緒に方向性を考えていくべきと思う。今回、就労の関係で市で重要な事業が生まれているが、全体で積み上げていくことが必要であり、こうした観点からは一つの反省点ではと感じている。
----------------------	---

<p>会議概要 (続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所の音声案内を復活する際、福祉課に入りやすい場所に設置しようと提案されたが、視覚障害者で確かに福祉課に行くことは多いかもしれないが、それだけではなく子育てや道路のことなどにも行くので中央のところが良いのではと発言した。情報の発信でも、障害があれば障害に関係する記事は必要だが子どもに関係する記事は分量の関係でいらぬということはない訳で、どうしてもそうした固定観念が市もそうだし、自分も含めて一人一人に持ってしまうのではと感じている。 ・包括という意味を考えた時、高齢者だけでなく障害者も全て含めて基本的に全部やるべきものではと考える。鎌倉でも地域を 10 区分にして包括支援センターを設置しているが、地域包括ケアに繋げるような仕組みを作って、全市的な課題から地域、個人の課題まできちんと取り組めるような体制が必要なのではないか。 ・共生条例は、共生社会をどう実現していくかという取り組みとして進められているが、もともと障害者の制度の改正等のことからでてきた問題と受け止めている。この共生ということの本協議会でも、市の取り組みを考えていく、議論していくべきではないかと思う。 ・民生委員のところに障害に関する話がいっても、まず言葉の問題で進まないという面がある。地域包括ケアシステムも同様である。地域の皆さんに知ってもらうためには、やはり出ていって話されることが必要ではないかと思う。障害者の問題を忘れ去られることがないように理解を深めていくためにも言葉の壁を取り除くことは重要である。 <p>3. その他</p> <p>以下について、事務局から連絡した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30年度第3回専門部会の開催予定 ・30年度第3回全体会について、以下のとおり予定することを確認した。 <p>平成31年3月11日(月)午後2時から 福祉センター第1・2会議室</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
----------------------	---